第28回アーカイブ研究会　Archival Research Center Lecture and Seminar Series　No. 28

シリーズ トラウマとアーカイブ Vol. 4

ちぐはぐな住居

ロマの進行形アーカイブとしての

講師

岩谷彩子

文化人類学

文化人類学。京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。インドの商業移動民および世界でロマ，「ジプシー」と呼ばれてきた人々の文化人類学的研究にたずさわる。夢や建築物，音楽や踊りなど，彼らのコミュニティの境界を形成するさまざまな装置を「記憶の媒体」としてとらえ，その特徴について考察している。著書に『夢とミメーシスの人類学―インドを生きぬく商業移動民ヴァギリ』（明石書店），『映像にやどる宗教，宗教をうつす映像』（せりか書房），分担執筆に『「移動民族」としてのロマと新人種主義―ヨーロッパ域内の人の移動をめぐるポリティクス』（斉藤綾子・竹沢泰子編『人種神話を解体する　第1巻 Invisibility―「見えない人種」の表象』，東京大学出版会）など。

ポスト共産主義期のルーマニアに林立し始めた奇妙な御殿。いつしか人々はそれを「ロマ御殿」と呼ぶようになった。アジア建築にも似た豪奢なその建物に住まうのは，ルーマニアで長らく差別と迫害を受けてきた少数民族ロマであり，その中でも最も移動性が高く，戦前から金属加工にたずさわってきたカルダラリ・ロマである。第二次世界大戦時，彼らの多くはトランスニストリアへの強制連行と強制労働で命を失った。戦後，トランスニストリアから引き揚げマイナスから出発した彼らだったが，金属市場の高騰を受け急速に蓄財をなしとげた。彼らの御殿には異なる建築様式が折衷され富を誇るが，建築途中で放置され剥き出しになった階段やベランダも存在し，敷地の一角にはスクラップが散乱する。家族の遺品が普段使われない部屋にひっそりと納められる一方で，未来の客人や子どもたちのために未使用の部屋もある。本報告では，語られない過去と饒舌なまでの未来の期待を含み，異なる空間的要素が組み合わさる一見ちぐはぐなロマの住居を，彼らの現在進行形のアーカイブとしてとらえてみたい。

2月18日（火）14：30－16：30

会場：芸術資源研究センター｜参加無料・事前予約不要

芸術研 GEISHIKEN

問い合わせ先：京都市立芸術大学芸術資源研究センター事務局　TEL：075-334-2217　Mail：arc@kcua.ac.jp　http://www.kcua.ac.jp/arc/